

京楽座 代表 中西和久 様

日本劇団協議会

会長 西川信廣

中西さんの質問状にお答えします。

- ①「一任されたのであれば、全理事の一任状を」とありますが、決議事項ではないので委任状は必要ないと考えています。中西さんからの質問状に、常務理事、理事が意見を言い、議論し、私が責任を持って答えることを、常務理事会、理事会で了承されたということです。
- ②もちろん、これまでを検証するのは必要だと思います。
- ③組織的には代表というより全国の演劇鑑賞会の事務局長をまとめる「事務局長」と認識しています。
- ④「侮辱」発言に関しては、協議会の総会の場で高橋氏が確か「いささか感情的だった」発言なされたと思います。また、質問状には真摯に答える必要があると思います。
- ⑤中西さんの時系列に沿った中での発言です。
- ⑥総会では、協議会の年間の活動に対して会員の皆様に承認していただく案件が多数あります。総会である以上、そちらを優先したと言うことです。しかも、中西さんがその場で出された文章が第三者が報告したような形になっていたのも、先ずそれを提出して頂いてからのことと考えたからです。従って、テープを軽視したわけではありません。
- ⑦はい、テープから起した発言を読みました。
- ⑧ですから、今のところ必要ないかと思えます。
- ⑨当協議会が事実関係を確認する立場ではないと考えております。
- ⑩「四つ」という言葉は差別的なことばだと思えます。また、有馬氏が（真意はともかく）「四つ」という言葉を使うこと自体、差別に対する認識が甘いと思えます。

今回の質問に対する私からの答えは以上です。これが十分な答えでなければ、これからも真摯にお答えするつもりですが、私が「未来志向で対話を」と提案したのは、誤解や曲解を避けるために公式に文章でのやり取りも必要ですが、わたしたち演劇をやるものは、たとえ見解が違っても、また激しい議論になったとしても、向かい合って直接自分の言葉で語り合うことが必要だという私の考え方からです。そこから、改めて創造団体と鑑賞団体が良好な関係を築くことが願いです。

2013年1月20日

署名 西川信廣